

平成28年度精華町いじめ防止対策推進委員会 議事要旨

- 1 開 会 平成28年7月27日(水) 午後1時00分
閉 会 平成28年7月27日(水) 午後2時00分

- 2 出席委員 草地委員長 桑原委員 岡田委員 岩井委員
(欠席委員なし)

- 3 出席事務局職員

太田教育長	岩崎教育部長
北澤総括指導主事	竹島学校教育課長
山崎学校教育係長	畑指導主事

- 4 会議の概要

(1) 教育長あいさつ

(2) 出席者の紹介

委員長の選出

委員の互選により、草地委員が委員長となった。なお、任期は精華町いじめ防止対策推進委員会条例第4条の規定により、前委員長の残任期間(平成29年3月末まで)となる。

(3) 本会の趣旨説明

精華町いじめ防止基本方針について

(4) 議事

報告事項

- ・児童生徒数、学力、進路、生徒指導、不登校児童生徒等の状況
- ・平成27年度 精華町小中学校いじめ調査集計結果

ー報告に対する質疑ー

○岡田委員

いじめ調査集計票において、経年変化が分かるようなものはないか。また、傾向などはあるか。

○北澤括指導主事

第1段階の件数については、調査し始めた当初は学校によって件数の格差があったが、生徒指導関連会議などで一定の共通認識をはかっており、平成26年度からは町内小学校での認知件数が200件程度であったものから同数程度の件数に、第2段階は1、2件と大きな変動はなかった。

○太田教育長

小学校で数百件、中学校になると2桁台に落ちており、このあたりをどう見ればよいか。

○岡田委員

小学校低学年ほど件数が多いので、子ども同士の中でトラブルが起きたとき、それを解決する力がまだついてないという捉え方もあるのでは。

○岩井委員

いじめ調査の方法について、記名式または無記名のどちらか。

○北澤総括指導主事

原則、記名で行っている。

○岩井委員

そうすると、自分がいじめられていると、もし訴えたい場合に、わからないように先生に届くかというところは、少し安心感が薄いのでは。思春期に入ると、いじめられているということを誰かに知られることで、そこから新たないじめが発生するのではないかという危険を子どもたちは感じて、正直に訴えにくくなる部分もあると思う。

○畑指導主事

アンケート調査を行う前に、精華町いじめ防止実務担当者会議を持ち様々な確認を行っているが、その中で、アンケート回収についても十分配慮した形で行うよう指示をしているところ。

また、子どもたちとの信頼関係を深め、普段の様子から気になることがあれば個別に話を聞いたり、学校によっては二者面談期間を設け、全ての子どもと担任が1対1で話をするなど、子どもたちの心のサインを感じ取り、早期発見に努めるよう確認をしている。

○草地委員長

アンケートの頻度はどのくらいの間隔で行っているのか。

○畑指導主事

アンケートは、7月、12月、2月に3回の調査を行っている。

○岡田委員

問題行動の件数について、年間件数とすれば少なく感じるが、どのような取り方をされているのか。

○北澤総括指導主事

集計については、京都府から生徒間暴力、家出などのようなトラブルの指標があり、それに沿って学校が報告している。指標に対する温度差については若干あるかもわからないが、実務者会議や生徒指導部会などで交流しながら意思統一を図っているところ。

○畑指導主事

例えば、問題行動の事象は対教師暴力、生徒間暴力、器物損壊、万引き、家出等、20項目近くのもの、その中のどこに当てはめるかという事になる。

例えば、子ども同士の些細な喧嘩で、担任が間に入り解決する場合は、計上しないなど一定のレベルは設けている。しかしながら、些細な問題の中にも大きな火種になるようなものもあるので、その辺をいかに見極めていくかは、研修等により教師の資質向上に努めなければならないと捉えており、生徒指導主任対象の会議、いじめ関係の会議などで実例も挙げながら進めている。

○岩井委員

学力も高く問題件数も少ないので一見良いように感じるけれど、子どもたちが無理をしている、過剰適応しているような印象を受けてしまう。

いじめ集計などを見ると、低学年では多いけれども、高学年は少なくなっており、子どもが周りのことを気にして、親の顔色、あるいは先生が期待しているものに対し、とても順応のいい子どもたちの気質をうかがう感じがするので、こういった質問紙調査や子どもたちに何か尋ねたとき、大人が求めている答えを返すというような性質が非常に強いのではないかと。

それが特に教育熱心な地域ほど強いのではないかと考えており、子ども同士の世界になると、そういう圧力や緊張感が強いというような雰囲気が絶えず充満している感じがあるが表には出ない、けれども圧力として何か絶えずあるので、本当にこの数字が正しいのか、本当にこれだけなのかと思われるのは、私もそのとおりだと思う。ただ、そういう状態が続くと、ごく些細な出来事で大きな問題となるという感じはあるので、先生方には危機感を持っていただきたい。子どもたちも大人の期待に沿うということを幼少期から無意識的に行っていると感じており、先生方には子どもたちの心の中を見極める力と信頼関係を築いてほしい。

○岡田委員

SNSなど教師や周りの大人が気づかない部分が多く、その中でいじめが進行して深刻な事態に陥るということはよくあるかと思うので、特にこれらにも注意が必要だと感じる。

○草地委員長

不登校が顕著に増えているが、その原因は分析しているか。またそこに、いじめが含まれていないか。

○北澤総括指導主事

25年度の途中から一気に増加した。家庭の状況などを一件ずつ調査したところ、傾向としては、家庭の問題、友人関係など大きなストレスを抱えている子どもたちがおり、それが一挙に噴き出し、これまで全国平均の半分程度であったものが全国並みに増加した。不登校の原因には、人間関係のもつれからというのはあるが、それが直接いじめに繋がったかどうかというところまでは、分析し切れていない。

○桑原委員

一概には言えないが、個人的に思うのは、診察に来られる親御さんの判断基準が数字、あるいは育児書に記載されているものと違う様子だから診察に来た、と言うような家庭が圧倒的に増加し、普段の状況と見比べて子どもの状態と何か違う、何かおかしいという事が減って来ており、普段の子どもたちの状態が把握できてないと感じる。

例えば、診察に来られたときに昼間の様子を聞くと、「保育所に預けていましたからわかりません」と言う親御さんがおられる。保育所ではどうだったか当たり前のように関心があるはずなのだが、完全に保育所任せという答えが多くあり、子どもの様子を把握するという部分で非常に乏しい親御さんが増えて来ているなという印象がある。

(5) その他